



インターネットが普及し、メールやフェイスブックでのやり取りが当たり前となった今、手書きの「手紙」を見直そうという動きが広がっている。書き慣れない大人向けに、手紙の書き方講座が人気を集め、百貨店では便箋セットなどがよく売れている。昨年、広島県教委が行った小学5年生を対象にした基礎学力調査では、はがきの表書きを正しく理解している児童は約半数にとどまるという結果もあり、関係者は「大人にも子供にも改めて手紙の良さを知ってもらいたい」と期待している。

(安田奈緒美)

ネット全盛期に「手書き」復権

◆大人は講座で「極意」

5月の日曜日、神戸市中央区の神戸市勤労会館。「心を届ける手紙のセミナー」が開かれていた。受講者を前に主宰者の村山順子さん(65)が「手紙は難しいものじゃない。形式にこだわらずに書けばいい」「返事を期待しない。返事が来たらラッキーぐらいの気持ちで」と手紙の「極意」を語った。早速、受講生たちは、20種類以上の便箋と切手から好きなものを選

び、両親や幼なじみに手紙を書き始めた。

「10年以上、手紙なんて書いていない」「書き出しが難しいなあ」と言いながら30分かけて、とっておきの手紙が完成。富山県に住む母親に手紙を書いた兵庫県太子町の主婦、朝田真紀さん(38)は「手紙はハートが大事だと言われて素直な思いを書けた」と満足そうに話した。

毎月100通以上の手紙を書くという村山さんが、手紙に深く関

手紙で「心」届けたい

わるようになったきっかけは、平成8年に急死した夫がその1カ月前に誕生日にくれた手紙。「いつもいきいきしている順子さんを見るのは心嬉しいものです」とあった。

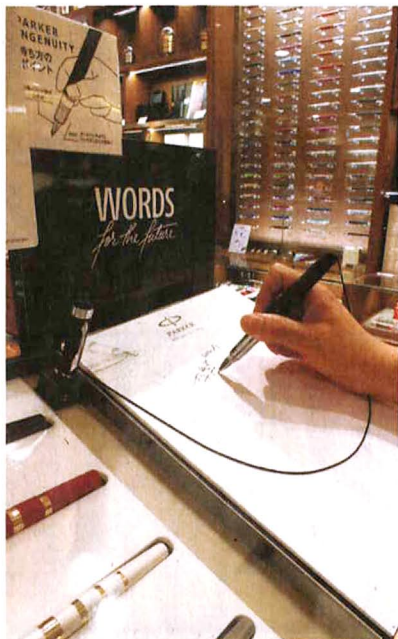
夫を亡くしてふさぎ込みがちだった村山さんは、手紙を読み返した「今の私はいきいきしているだろうか?」と考えるようになった。以前から興味があった家事代行サービス業を起業。さらに地域貢献活動として16年には手紙のセミナーを始めた。6月で71回を迎え参加者は延べ千人を超えた。「書くことは自分の気持ちを確認するきっかけにもなる。自分を見つめ直すこともできるのです」

◆小学生も授業で体験

一方、日本郵便では小学生を対象にした「手紙の書き方体験授業」を22年度から始めている。21年に全国の小学6年生を対象に行われた文部科学省の「全国学力・学習状況調査」で、住所や氏名などはがきの表書きについてたずねたところ、正答率が67・1%という低い結果にとどまったことがき

毎月1回開かれる「心を届ける手紙のセミナー」。参加者は実際に手紙を書く。「10年以上手紙を書いていない」という人も

◆お気に入り筆記具で
百貨店では手紙にまつわる雑貨の売り上げが伸びている。阪急百貨店梅田本店では昨秋のリニューアルオープンに合わせて世界の万年筆、ボールペンをそろえた筆記用具売り場「ペンラボトリー」を新設、現在、当初予想の2倍近い売り上げとなっている。また、同フロアには2千種類以上のカードと500種類以上の便箋セットをそろえた「文具雑貨マルシェ」のコーナーも。「手書きの良さが再認識されているように、小学生から大人まで幅広い世代に興味を持ってもらっている」(同店)という。



さまざまな万年筆やペンが並ぶ百貨店のコーナー。筆まめになるコツの一つは「お気に入りの筆記用具を持つこと」という＝大阪市北区の阪急百貨店梅田本店

